2023.3.7 Vol.61
ISSN 0919-3626
郡山市立美術館ニュース
ザ・ルーフ

THE ROOF

山本昇雲
《ひなまつり》
（『いますがた』より）
1907（明治40）年
木版・紙
当館蔵

Contents

- 郡山市立美術館開館30周年記念展2「ヨハネ・パウロ2世美術館展」
- 企画展「大川美術館コレクションによる　20世紀アート120」
- 報告　郡山市立美術館開館30周年記念展1
  「記録する眼　豊穣の時代　明治の画家　亀井至一、竹二郎兄弟をめぐる人々」
- 寄稿「美術館へ、美術館から、出かける」
- 令和3年度収蔵品紹介
- Report
- Information

“罪深い”女たちの400年間の誘惑

掲載作品はすべてヨハネ・パウロ２世美術館蔵　©Museum of John Paul II and Primate Wyszyński

ルーカス・クラーナハ（子）《聖母子》　油彩・板

ポーランドのワルシャワにあるヨハネ・パウロ2世美術館は、化学者ズビグニェフ・ポルチェンスキとその妻ヤニーナが１９８６年に国と教会に寄贈したコレクションをもとに設立された。館名に名を冠するのは第２６４代ローマ教皇ヨハネ・パウロ２世であり、史上初のポーランド出身の教皇として同国で広く愛されている。

この展覧会の中核をなすのは、16世紀から19世紀頃までの約４００年間のヨーロッパ絵画となる。特にオールドマスターに帰される作品が大半を占めている。オールドマスターとは、概ね15世紀から18世紀、すなわちルネサンスからバロック、ロココに至る時代の巨匠たちやその作品を指す。それらの作品のなかでも、本展には女性を描いた作品が集められている。

オールドマスターの作品には、キリスト教の宗教画と古代ギリシャ・ローマの神話や逸話を描く神話画が圧倒的に多いが、キリスト教において女性は歓迎されない存在でもあるらしい。聖書によると最初の女であるエバは、人類の祖アダムのあばら骨から生まれた。エバは蛇に唆（そそのか）されて神に背き、禁断の木の実を食べるようアダムを誘った。禁を犯した２人は楽園から追放され、子孫に至るまで原罪を負い、永遠の生命を失って苦難に満ちた地上での生を営むようになる。その時以来、エバの末裔である女たちは、この失楽園の責を負い、秩序を守らぬ誘惑者、罪人として懲らしめられてきた。それと同時に、最初の女がエバ（命）と名付けられたように、女は母としての栄誉も担うこととなった。その栄誉は、本展第１章「母と子」を中心として十分に見てとることができるだろう。

なお、アダムとエバの末裔たる全人類の中で原罪を免れたのは、イエス・キリストと聖母マリアのみである。この二者による**聖母子**の主題は、キリスト教美術でもっとも重要な主題のひとつとなる。その証として、展覧会には16世紀から17世紀のドイツ、イタリア、フランドル、スペインという４地域の聖母子が出品されている。それにより、地域や時代に応じた表現の違いを楽しむことができる。

このように聖母は理想的な女かつ理想的な母親であり、その足跡を辿って信仰と純潔を守って命を落とした**聖チェチリア**や聖カタリナといった女性たちが聖人に列せられてきた。しかし、人間というのはそうも完璧になりきれない。生きているうちに罪を犯すこともあり、その際に救いがあってほしいと思うのが人情だろう。そこで悔い改めた娼婦として人気を博した聖人が、**マグダラのマリア**である。イエスへの奉仕のために罪深い生き方を放棄したという逸話ゆえに、特に17世紀以降は悔悛者としての敬虔さをもちながらも、官能性と蠱惑（こわく）的な美貌を備えた姿で描かれることも多く、画家にとっても描きがいのある主題であったに違いない。

その後、19世紀以降の〝モダン・マスターズ〟の時代に近づくと、描かれる女性像も変化していく。特別な女性だけでなく、一般の女性も主役となる時代の到来である。聖女から世俗の女性まで４００年間の女性のイメージを辿る、というのが本展裏テーマである。

（川上　恵理）

ドメニキーノ《聖チェチリア》
油彩・キャンバス

企画展

開館 30 周年記念展２　ヨハネ・パウロ２世美術館展

2023 年 1 月 28 日（土）～3 月 26 日（日）

開館時間：午前９時 30 分～午後５時（入館は午後４時 30 分まで）
休 館 日：毎週月曜日
観 覧 料：一般1200(960)円　高校・大学生・65歳以上800(640)円
※（　）内は 20 名以上の団体料金
中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料
主　　催：郡山市立美術館
企画協力：株式会社ホワイトインターナショナル
後　　援：ポーランド広報文化センター

ヤン・ファン・スコレル《マグダラのマリア》1532/37 年
油彩・板

20世紀の多彩な芸術家たち

― ピカソ、ベン・シャーン、アンディ・ウォーホルから草間彌生まで ―

マリー・ローランサン《女性の半身像》1930年代　油彩・キャンバス

20世紀、科学技術の目覚ましい発展により人々の生活水準は大きく向上しました。さらに二度の世界大戦を経て、産業化され新たに拓かれた社会は、人々の感覚を変えました。それに伴い美術も、産業、政治、思想とかかわりあいながら多様な変化を遂げることになります。

20世紀初頭のパリでは、第一次世界大戦前から多くの外国人芸術家が集まり、美術が一斉に花開きます。キュビスムや抽象芸術など、それまでの美術の在り方を大きく覆す表現形式が登場しました。また、マックス・エルンストやサルバドール・ダリなど、人間の無意識に着目した芸術家も現れます。「第一部：エコール・ド・パリとアヴァンギャルド」では、マティスやルオー、マリー・ローランサンなどフランス出身の画家に加え、ピカソやシャガール、藤田嗣治をはじめパリで活躍した画家たちをとりあげます。

第二次世界大戦終結後は、戦後復興と経済的な繁栄を背景に、美術の舞台がパリからニューヨークへと移っていきました。「第二部：アメリカン・シーンの画家たち」では、社会問題を鋭敏な感性でとらえ、大都会に生きる人々をありのままに表現しようとしたベン・シャーンによる、初期から最晩年にかけての代表作が見どころのひとつとなっています。さらに、清水登之をはじめアメリカで新しい美術に触れながら活動した日本人画家の作品、そして大量生産・消費社会をテーマに表現したポップ・アートもご覧いただきます。

時代の先端を目指し、独自性や独創性を求めて新しい表現に挑戦した芸術家たち―大川美術館が誇る20世紀アートの数々をどうぞお楽しみください。

（新田　量子）

清水登之《祭之図》1918年　油彩・キャンバス

企画展

大川美術館コレクションによる　20世紀アート120
4月15日（土）～6月11日（日）

開館時間：午前9時30分から午後5時まで
（入館は午後4時30分まで）
休 館 日：毎週月曜日
観 覧 料：一般800（640）円
高校・大学生・65歳以上500（400）円
※（　）内は20名以上の団体料金
中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料
主　　催：郡山市立美術館
協　　力：公益財団法人大川美術館
企画協力：株式会社キュレイターズ

関連イベント　関連イベントにつきましては、8ページをご覧ください

公益財団法人大川美術館

群馬県桐生市出身の実業家、大川栄二氏が約40年にわたって収集した国内外の作家の作品をコレクションの核として、平成元年、桐生市に開館。本展では、同館が所蔵する20世紀アートに焦点を当て、2部構成でご紹介します。

報　告

郡山市立美術館開館30周年記念展1

「記録する眼　豊穣の時代　明治の画家　亀井至一、竹二郎兄弟をめぐる人々」

亀井至一（1843～1905）と竹二郎（1857頃～1879）は江戸下町に生まれ、明治時代に画家として活動しました。ともに横山松三郎のもとで洋画を学び、版画工房・玄々堂に在籍したことが知られています。兄の至一は、玄々堂に画工として就職したのち、一枚刷りの石版画とくに美人画を多数制作しました。また、1890（明治23）年の第三回内国勧業博覧会に《美人弾琴図》を出品し、褒状を受賞するなど画家としても活躍しました。弟の竹二郎は、文化財保護の先駆者である蜷川式胤の支援を受けて、東海道の53の宿場を油彩画で描くスケッチ旅行ののち、1879（明治12）年23歳といわれる若さで没しました。

開館後の1993（平成5）年に『観古図説　陶器之部』（亀井至一画）、『懐古東海道五十三駅真景』（亀井竹二郎原画）を含む明治石版画、翌年には亀井竹二郎の〈石版『懐古東海道五十三駅真景』油彩原画〉を収蔵しました。

さらに、至一ご遺族からスケッチ類を2008（平成20）年と2012（平成24）年にご寄贈いただき、2021（令和3）年には蜷川ご遺族から蜷川式胤旧蔵資料の収蔵にご協力いただくなど、コレクションの充実をはかるとともに、調査研究を続けてまいりました。こうした美術館活動の成果としてコレクションを多角的に紹介することは、本展開催の大きな目的でもありました。

亀井兄弟周辺には、横山や蜷川のほかにも、玄々堂に出入りした画家や文化人、またその後の印刷業界に深く関係した人々など、日本近代美術史の流れを知るうえで重要な人々がいました。本展では、こうした周辺の人々との関わりにも焦点をあて、これまでの近代美術史上で見落とされがちであった諸相を検証するとともに、〝知られざる〟明治の画家・亀井兄弟の作品をご紹介しました。

（塚本　敬介）

展覧会

郡山市立美術館開館30周年記念展1

記録する眼　豊穣の時代　明治の画家
亀井至一、竹二郎兄弟をめぐる人々

2022年11月3日（木・祝）
～2023年1月9日（月・祝）

主　　催：郡山市立美術館
協　　力：神奈川県立歴史博物館
後　　援：明治美術学会

開館30周年記念展1 「記録する眼　豊穣の時代　明治の画家　亀井至一、竹二郎兄弟をめぐる人々」関連イベント

講演会「記録する眼と手の間で ―エイジェント論を手がかりとして―」

2022年11月20日（日）
場所：多目的スタジオ
講師：小泉　晋弥さん（茨城大学名誉教授）

小泉　晋弥さん

寄席「幕末明治の見世物寄席」

2022年11月23日（水・祝）
場所：多目的スタジオ
演目：落語「がまの油」／林家　彦三さん
落語「一眠国」／林家　正雀さん
音楽パフォーマンス／のだゆきさん
落語「樟脳玉」／林家　正雀さん

林家　彦三さん

林家　正雀さん

のだゆきさん

寄稿

美術館へ、美術館から、出かける

木下　直之
（静岡県立美術館 館長）

開館三〇周年を記念して、三〇年の間に開催された展覧会のポスターが一堂に会した。それらを貼り出した大壁面は圧巻だった。

「英国風景画展」（一九九二年）に始まり、「記録する眼　豊穣の時代展」（二〇二二年）に至るまでの展覧会から、「ピカソ展」、「縄文土器の造形展」、「ゴジラの時代展」、「原撫松展」、「写真の世紀展」、「布ものがたり展」、「大判じ絵展」、「イギリスの美しい本展」などと目についたままに拾い上げると、美術館がいかに多様な造形の世界へ誘（いざな）ってくれる場所であるかと思う。

美術館を訪れることは、そこからまた別の世界へ出かけることなのであり、終着点ではなく出発点だ。

私が郡山市立美術館を最初に訪れたのは「描かれた東海道五十三次展」（一九九七年）だった。それから二五年後に、亀井竹二郎によって「描かれた東海道五十三次展」を再び催すことになり（それが「記録する眼 豊穣の時代展」）、会期中に明治美術学会の特別研究会が組まれた。登壇の機会を与えられた私は「なぜ明治・美術・学会なのか」と題して話し、それが終わると、建築史家の藤森照信さんを壇上に引っ張り出して、「明治研究は机上より路上で」をテーマに対談した。

ちなみに、藤森さんは路上観察学会（一九八六年）の創立メンバーのひとり、明治美術学会の創立はほぼ同時期の一九八四年だった。いずれの会員も、書物に書いてあることではなく、目の前にある現実、実物、事実と向き合い、それが何であるかに取り組んでいた。

亀井竹二郎は兄の至一とともに、「机上」（すなわち美術史）ではかろうじて知られていた。竹二郎には、二二歳か二三歳というあまりにも早い死のあとに出版された石版画集『懐古東海道五十三駅眞景』（一八九一～九二年）があった。その油絵原画が突如「路上」に（実はどこかの家の蔵から）出現した。それを一九九四年に郡山市立美術館が入手した。

英断だった。亀井兄弟は郡山に縁もゆかりもない。先にふれた多彩な展覧会のラインナップには公立美術館としての配慮が働いている。そこに「地元ゆかりの」という強い縛りが入るのは、郡山に限らず、私が館長を務める静岡県立美術館でも同じである。しかし、美術館が多様な世界への入口であるという意味で、この収蔵は郡山市民にとって願ってもないことだ。ふたりを案内に立てると、明治の美術のまだまだ知らない世界へと入って行けるからだ。

研究会での私の話は、つぎのような提案だった。洋画家高橋由一はすでに先駆者として美術史に不動の地位を得た。代表作「鮭図」（東京藝術大学大学美術館蔵）は国の重要文化財にも指定されているものの、それは初めどこにあっただろうか。おそらく、一八七六年に浅草寺境内（奥山と呼ばれた）の茶屋（油絵茶屋と呼ばれた）で開かれた展覧会（むしろ見世物と呼ぶべき）に出た「乾魚図」が、私たちの知っている「鮭図」ではないか。

そうであるなら、同じ茶屋には、亀井至一・竹二郎の「古人の像」が並んでいた。さらに下岡蓮杖の「台湾戦争図」（靖国神社遊就館蔵）には至一の手が入っているだろう。「鮭図」を近代日本美術史から浅草へと引き戻してみる。「記録する眼 豊穣の時代展」は、そのための格好の場所である。

この話を聴いてくださった学芸員のひとりから、「鮭を育った海へと帰してあげることですね」といわれ、なるほどそうだと思った。

シンポジウム「展覧会ができるまで ～亀井兄弟の足跡を辿って～」

2022年12月3日（土）
場所：多目的スタジオ
パネリスト：
増野　恵子さん（早稲田大学講師）
角田　拓朗さん（神奈川県立歴史博物館学芸員）
中山　恵理（当館学芸員）

増野　恵子さん（中）
角田　拓朗さん（右）
中山　恵理　（左）

2022年度　明治美術学会特別研究会

2022年11月19日（土）
主催：明治美術学会
場所：多目的スタジオ（オンライン同時配信）

研究発表

第1部「明治美術研究の最前線」

中山　恵理（当館学芸員）
「亀井兄弟の足跡を辿って」

惠美千鶴子さん
（東京国立博物館百五十年史編纂室長 書跡・歴史室長）
「蜷川式胤の眼」

第2部「なぜ明治を研究するのか」

木下　直之さん（明治美術学会会長）
「明治美術学会創世記―鮭図ありき」

藤森　照信さん（江戸東京博物館館長）
「明治から建築史を見渡す」

対談「明治研究は机上より路上で」

（木下直之さん×藤森照信さん）

木下　直之さん（左）
藤森　照信さん（右）

令和３年度

新 収蔵作品紹介

令和３年度もみなさまのご協力により、新たに作品を収蔵することができました。

購入作品は、蜷川式胤（にながわのりたね）（１８３５−１８８２）による混合技法の作品１点、亀井至一（１８４３−１９０５）の油彩画１点、至一の弟・亀井竹二郎（１８５７頃−１８７９）の油彩画３点、吉井忠（１９０８−１９９９）の油彩画１点、郡山市出身のガラス工芸家・佐藤潤四郎（１９０７−１９８８）のガラス作品２点の計８点です。

また、蜷川式胤の混合技法作品１点と亀井竹二郎の油彩画１点を蜷川親靖様から、高山良策（１９１７−１９８２）の油彩画１点を柳沼文子様から、佐藤潤四郎の陶器１点を高木義人様から、人見純一（１８９４−１９８６）の水彩画２点、鉛筆画１点と明治・大正期の石版画作品など48点を丹尾安典様からご寄贈いただきました。

新たに収蔵した作品は、常設展などで順次展示していく予定です。

高山良策
《血化洞屁酢池場留》
1975（昭和 50）年
油彩・キャンバス

「ちかどうフェスティバル」と読める本作は常設展示室3「社会へのまなざし」で展示しています。

常設展示のご案内

2023 年 4 月 23 日（日）まで

1　描かれた建築
2　日本近代−画家たちの挑戦
3　社会へのまなざし
4　春の版画／食卓を彩る

本作は開館30周年記念展1「記録する眼　豊穣の時代　明治の画家　亀井至一、竹二郎兄弟をめぐる人々」(2022年11月3日〜2023年1月9日)に出品されました。

亀井至一
《東京上野之景》
1874（明治 7）年
油彩・キャンバス

表紙の作品

山本昇雲《ひなまつり》（『いますがた』より）
1907（明治 40）年　木版・紙
当館蔵　亀井よし子氏寄贈

山本昇雲は高知県に生まれた画家です。明治時代の雑誌『風俗画報』の口絵・挿絵に全国の事件や風俗・風景を描く報道画家として、また、花鳥画や美人画を描き文展などに出品する日本画家としても活躍しました。さらに、明治の終わりには木版画の揃い物を制作し、「浮世絵師」としての顔も持っていました。本作は、50点を超えるといわれる揃い物『いますがた』のうちの一つです。男雛を手にする少女を錦絵の伝統的な大首絵で描いています。

Report

第 20 回　風土記の丘の美術展
～郡山市内の小学生による作品展～
2022 年 7 月 23 日（土）～ 8 月 19 日（金）

場　所：美術館ロビー

市内を 4 つの地域に分けて、週替わりで展示しました。

第 14 回　風土記の空
～郡山市内の中学校美術部による作品展～
2022 年 11 月 15 日(火)～ 2023 年 1 月 9 日(月･祝)

場　所：美術館ロビー

参加校：日和田中学校、郡山第四中学校、
　　緑ケ丘中学校、小原田中学校、西田学園

郡山市内の中学校美術部で制作した作品を展示しました。自分の絵を額に入れる作業や、壁に絵を掛ける展示体験もおこないました。

企画展
「光と遊ぶ超体験型ミュージアム　魔法の美術館」関連
会期：2022 年 6 月 18 日～ 8 月 28 日

ワークショップ「ピンホールシネマであそぼう！」
2022 年 8 月 11 日（木・祝）

場所：多目的スタジオ

講師：フワリラボ（冷水久仁江さん＋岡田憲一さん）

不思議なカメラをつくって、さかさまになった自分だけの不思議な世界を体験しました。

企画展
「永遠のソール・ライター」関連
会期：2022 年 9 月 10 日～ 10 月 23 日

講演会「写真家ソール・ライター」
2022 年 10 月 23 日（日）

場所：多目的スタジオ

講師：飯沢耕太郎さん（写真、映像評論家）

当時使用されていたフィルムの特色や、彼の写真と向き合う姿勢などのお話から、ソール・ライターの写真の楽しみ方を示していただきました。

Information

大川美術館コレクションによる「20世紀アート120」関連イベント

※すべて事前申込不要

講演会「大川美術館と20世紀アートコレクション」

日時：4月29日（土・祝）午後2時から
講師：田中　淳さん（大川美術館館長）
場所：多目的スタジオ（入場無料）
定員：70名（予定）

美術講座「20世紀アートの魅力」

日時：5月27日（土）午後2時から
講師：当館学芸員
場所：多目的スタジオ（入場無料）

映画会「ミステリアス・ピカソ　天才の秘密」

日時：5月6日（土）午後2時から
場所：多目的スタジオ（入場無料）

イベントの詳細につきましては、当館ウェブサイトにてご案内します。

ギャラリートーク

日時：5月13日（土）午後2時から
講師：当館学芸員
場所：企画展示室
※企画展チケットが必要です

特別ギャラリートーク

日時：5月20日（土）午後2時から
講師：大谷明子さん（大川美術館学芸員）
場所：企画展示室
※企画展チケットが必要です

新型コロナウイルス感染症対策について

みなさまのご理解とご協力をお願いいたします

- 発熱、呼吸器症状（咳など）のある方は入館をご遠慮ください。
- 団体でご来館の際は事前予約をお願いします。
- 混雑する場合は入場制限をすることがあります。

TOPICS

juju
130CAFE
ジュジュ イチサンマル カフェ

営業時間／ 11:00-17:00
電　　話／ 024-942-2250

【デザートドリンクのご案内】

ベリーカプチーノ　（ホット590円・アイス¥600円）

★当カフェのドリンクメニューは全てテイクアウト可能です。

春から新しい苺のフレーバーラテが登場。
ストロベリーフレーバーのミルクが、
自家焙煎コーヒー豆を使用したエスプレッソのほろ苦さを
やんわり包み込み
甘く華やかな香りを同時に楽しめるドリンクです。
美術館観賞後に是非お立ち寄り下さいませ。

メニューや料金、営業時間は予告なく変更となる場合がございます。
あらかじめご了承ください。

郡山市立美術館
Koriyama City Museum of Art
〒963-0666　福島県郡山市安原町字大谷地130-2
TEL.024－956－2200　FAX.024－956－2350
https://www.city.koriyama.lg.jp/site/artmuseum/

敷地内禁煙

発行日／令和５年３月７日

FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C011278 www.fsc.org
VEGETABLE OIL INK
紙へリサイクル可
この印刷物は、適切に育まれた森から生まれたFSC認証紙と、環境にやさしい植物油インキを使用しています。